

吹く風を冷たく感じる季節になりました。今月号は、教科書や模試などでも多く取り上げられる重松清さんの作品紹介と読書会の報告をします。

——重松清さんってどんな人？

1963年岡山県生まれ。角川書店の編集者として勤務後、1991年に『ビフォア・ラン』で作家デビュー。

2000年に『ビタミンF』で直木賞を受賞。青春期の心情を描いた作品や家族の絆^{きずな}をテーマにした作品が多く、度々ドラマ化や映画化されている。王道のテーマで描かれた素直な文章は、どんな人にも親しみやすいものとなっている。



『せんせい。』 重松 清 著

一人の生徒を好きになれなかった先生。厳しくすることでしか教え子に向き合えなかった先生。そして、そんな彼らに反発した生徒。けれど、オトナになればきっとわかる、先生が教えてくれたこと。

——ほろ苦さとともに深く胸に染みいる、教師と生徒をめぐる6つの物語。



『あの歌がきこえる』 重松 清 著

意地っ張りだけどマジメなシュウ、お調子で優しいヤスオ、クールで苦労人のコウジ。3人は中学からの友達。互いの道を歩き始めても、3人の胸にはいつも、同じメロディーが響いていた……。

——色褪せない名曲たちに託し、かつこ悪くも懐かしい日々を描く青春小説。

読書会報告 第1弾

11月9日の放課後に図書館で「読書会」を開催しました。読書会では27人でビブリオバトルを行い、お気に入りの本の魅力を互いに語り合いました。その中から、チャンプ本に選ばれた本とその「読みどころ」を紹介します！

2年6組の宇都宮優真さんが語る!! 『レガッタ!水をつかむ』 濱野 京子 著

優秀な姉の言葉に反発し、強豪ボート部に入部した飯塚有里。ボートはひとりでは漕げないと知ったとき、オールが水をつかみはじめる……。

漕ぎ手を諦めてコックスになる者、マネージャーになる者、小艇にのる者、部をやめていく者。それぞれの気持ちを丁寧に書いているのが魅力です。青春がいっぱいに詰まった爽やかな作品だと思います。



2年7組の水谷陽菜さんが語る!! 『書店ガール』 碧野 圭 著

協調性もなく自由奔放の書店員、亜紀に手を焼いていたアラフォー副店長、理子。そんな亜紀と理子に、ある日とんでもない危機が……。

店の売上げを増やさない、存続が難しいと知ったときの主人公の「やれることはなんでもやる。それをやってもみないで、この店を諦めるなんてことは、私はしたくない」という一言が好きです。

主人公目線なので、女性の心理が丁寧に表現されていてとても面白いです！

